

平成 26 年 10 月 29 日

各 位

マ ネ ッ ク ス 証 券 株 式 会 社
代 表 取 締 役 社 長 C E O 松 本 大

「MONEX 個人投資家サーベイ 2014 年 10 月調査」 ～個人投資家の初めての投資金額はどのくらい?～

マネックス証券株式会社（以下「マネックス証券」）は、2009 年 10 月より、マネックス証券に口座を保有する個人投資家を対象に、相場環境等に対する意識調査を月次で実施しております。このたび、2014 年 10 月 10 日～14 日にインターネットを通じて実施したアンケート調査 850 件の回答結果を報告書にまとめました。

【調査結果要約】

（1）米国株 DI^(※) は小幅の下落で米国市場への期待感は依然高い

（別紙レポート 2、3 ページ グラフ 1、2）

今後 3 ヶ月程度の各国（日本、米国、中国）の株式市場見通しについてたずねました。調査期間中、米国株式市場の大幅安や日本株式市場の下落などにより投資家心理が悪化したためか、日本株 DI・米国株 DI については「上昇すると思う」個人投資家の割合が前回調査時（2014 年 9 月実施）と比較して減少しました。しかし、「上昇すると思う」個人投資家のほうが「下落すると思う」投資家よりも多い状況は継続しています。また、米国株 DI の下落が小幅であることから米国市場への期待感が依然高いと考えられます。一方で中国株 DI については「下落すると思う」投資家が多い状況が続いています。

【日本株 DI】（2014 年 9 月） 38 →（2014 年 10 月） 9（前回比-29 ポイント）

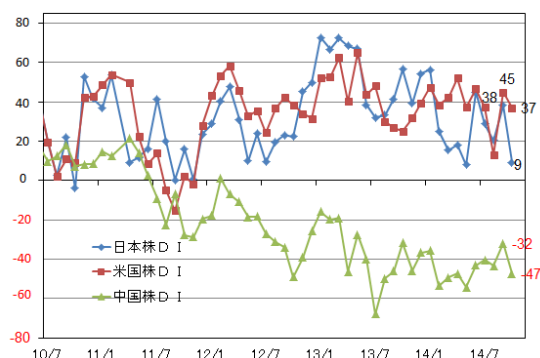
【米国株 DI】（2014 年 9 月） 45 →（2014 年 10 月） 37（前回比-8 ポイント）

【中国株 DI】（2014 年 9 月） -32 →（2014 年 10 月） -47（前回比-15 ポイント）

(※) 「上昇すると思う」と回答した割合 (%) から「下落すると思う」と回答した割合 (%) を引いたポイント

グラフ1: 今後3ヶ月程度の株価予想

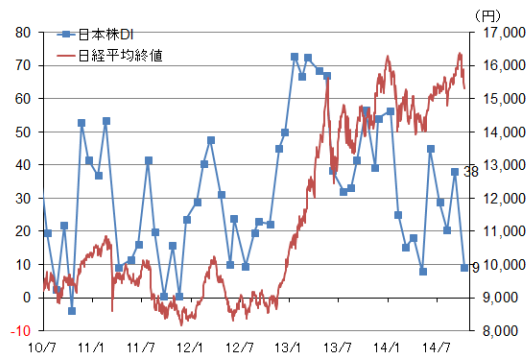
(日本の個人投資家)



(出所) マネックス証券作成

グラフ2: 日経平均株価(終値)と日本株DIの推移

(日本の個人投資家)



(出所) マネックス証券作成

(2) 米国の金利動向に関心が高まる

(別紙レポート 6 ページ グラフ 6-1、6-2)

個人投資家に注目しているトピックについてたずねたところ、個人投資家の日本の企業業績などへの注目度は依然として高い状況が継続しています。前回調査時と比較して米国の金利動向への関心が高まっています。反対に日本の政治動向等や欧州の金利動向・金融政策・政治・外交等への関心度は低下しています。

グラフ6-1: 注目するトピック(前回調査からの変化)

(日本の個人投資家)

	日本	米国	欧州	中国 (香港含む)	新興国 (中国除く)
企業業績	0.3	-0.3	-1.8	-1.7	0.0
マクロ経済	-4.5	0.4	-4.1	0.1	-0.4
為替動向	-1.3	2.4	-2.1	0.1	-0.8
金利動向	-1.9	5.8	-1.05	-0.3	-0.3
金融政策	1.8	1.3	-4.8	-1.0	-1.6
政治・外交	-5.8	1.3	-6.6	4.3	-3.1

(出所) マネックス証券作成

グラフ6-2: 注目するトピック

(日本の個人投資家)

	日本	米国	欧州	中国 (香港含む)	新興国 (中国除く)
企業業績	84.2%	47.5%	11.8%	10.9%	9.9%
マクロ経済	58.7%	61.8%	24.7%	24.7%	20.1%
為替動向	65.8%	68.5%	24.1%	6.4%	11.4%
金利動向	53.2%	67.5%	18.9%	5.1%	9.3%
金融政策	68.6%	64.1%	29.5%	12.9%	8.7%
政治・外交	63.1%	57.4%	28.9%	42.7%	22.0%

(出所) マネックス証券作成



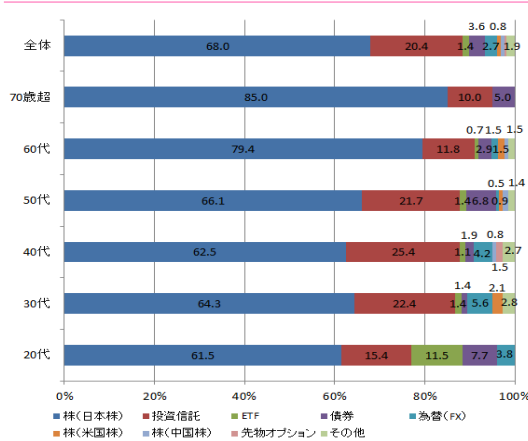
(3) 初めての投資金額、20代・30代・40代・60代では「50万円まで」、50代・70代超では、「100万円まで」

(別紙レポート 7 ページ グラフ 7-1、7-2)

今回の調査では初めての投資対象についてたずねたところ、全体の6割以上の個人投資家から「日本株式」との回答がありました。次いで割合が多かったのは「投資信託」となりました。30代・40代では、「外国為替証拠金取引 (FX)」が3番目に、30代では「米国株式」が4番目にランクインし、比率が高いことが注目されます。

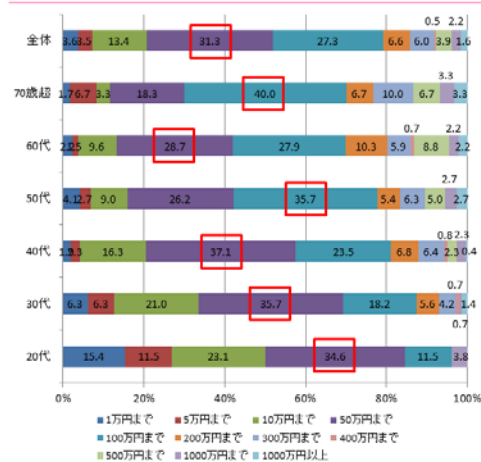
また、初めての投資金額については、20代・30代・40代・60代では「50万円まで」という回答がもっとも多く、50代・70代超では、「100万円まで」という回答が最も多くなりました。

グラフ7-1: 初めての投資(投資対象)



(出所) マネックス証券作成

グラフ7-2: 初めての投資(金額)



(出所) マネックス証券作成

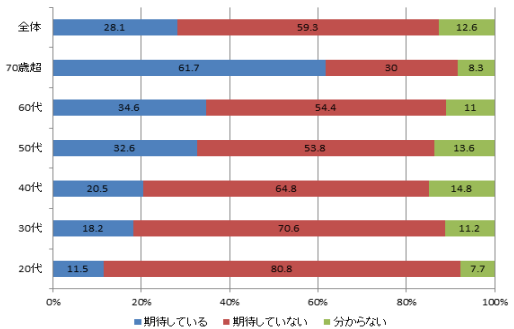
(4) 個人投資家の約 4 割が資産運用で老後資産を準備、公的年金への期待度が低い年代でも運用状況の関心度合いは高い

(別紙レポート 8、9 ページ グラフ 8-2、8-3、8-4)

公的年金に対する期待度についてもたずねたところ、公的年金に「期待している」という回答が全体の約 3 割、「期待していない」という回答は全体の約 6 割となりました。

年代別にみると、公的年金を「期待している」という回答は、70 歳超の約 6 割、20 代では、約 1 割となり、年代別に大きな差があることがわかりました。

グラフ8-2: 公的年金への期待度

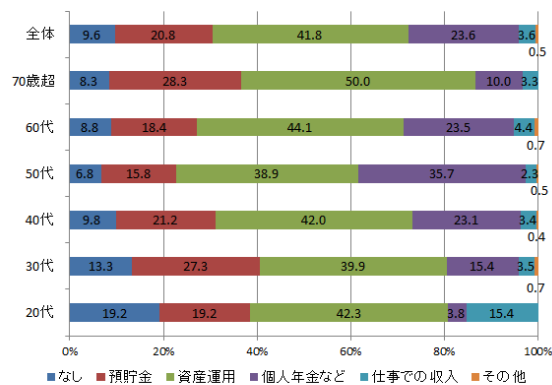


(出所) マネックス証券作成

また、公的年金以外で老後資産を準備しているかたずねたところ、全体の約 4 割が「資産運用」、約 2 割が「個人年金保険等」、約 2 割が「預貯金」で準備していると回答がありました。全体の約 8 割が公的年金以外にもなんらかの形で老後資産を準備している一方で約 1 割が準備していないことがわかりました。

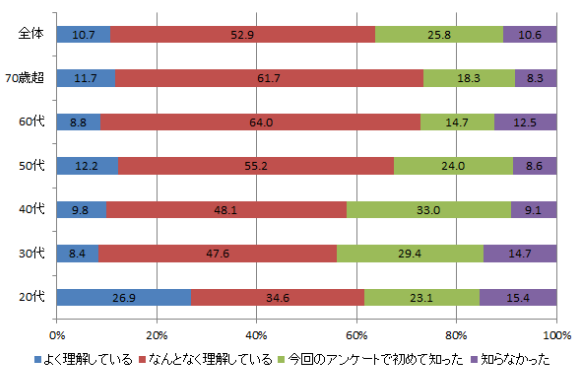
さらに、国民年金の年金積立金を管理・運用する機関（年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF））の運用状況の理解度についてたずねたところ、「よく理解している」「なんとなく理解している」という回答は、全体の約 6 割となりました。年代別に差はみられるものの、年金への期待度が低い年代でも、国民年金の運用状況への関心度合いは高いことがうかがえました。

グラフ8-3: 老後資産の準備状況



(出所) マネックス証券作成

グラフ8-4: 国民年金の運用状況の理解度



(出所) マネックス証券作成

調査結果の詳細は、添付の別紙レポートをご参照ください。

【お問合せ先】
 マネックス証券株式会社
 営業本部 営業企画グループ PR 担当 松崎 電話 03-4323-3800